

やってみて分かった!

# 「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムを創り出すコツ

koju

「声」と「場」を大切に学習プログラムを創り出すコツは..

## POINT 01 できることから少しずつ..

いきなりは難しいことも.. できることから少しずつ!

- ・地域のニーズを把握し講座を企画
- ・当事者に適切に支援できる体制の整備



- ・今ある講座を少し工夫
- ・広報への掲載を工夫  
例「障害のある方にご相談ください」
- ・特別支援学校等と連携・協働する。



例) スポーツ教室

仙北市中央公民館と大曲支援学校  
せんぼく校が連携、協働し実施。

## POINT 02 必要感 楽しさ 体験

楽しい体験を伴う学びは、高い学習効果が期待できます。  
また「今なぜそれを学ぶのか」という必要性によって、  
持続可能性が高まります。



例) あきたスマートカレッジ

防災は、障害の有無に関わらず、  
誰の身にも起こりうる。

## POINT 03 合理的配慮

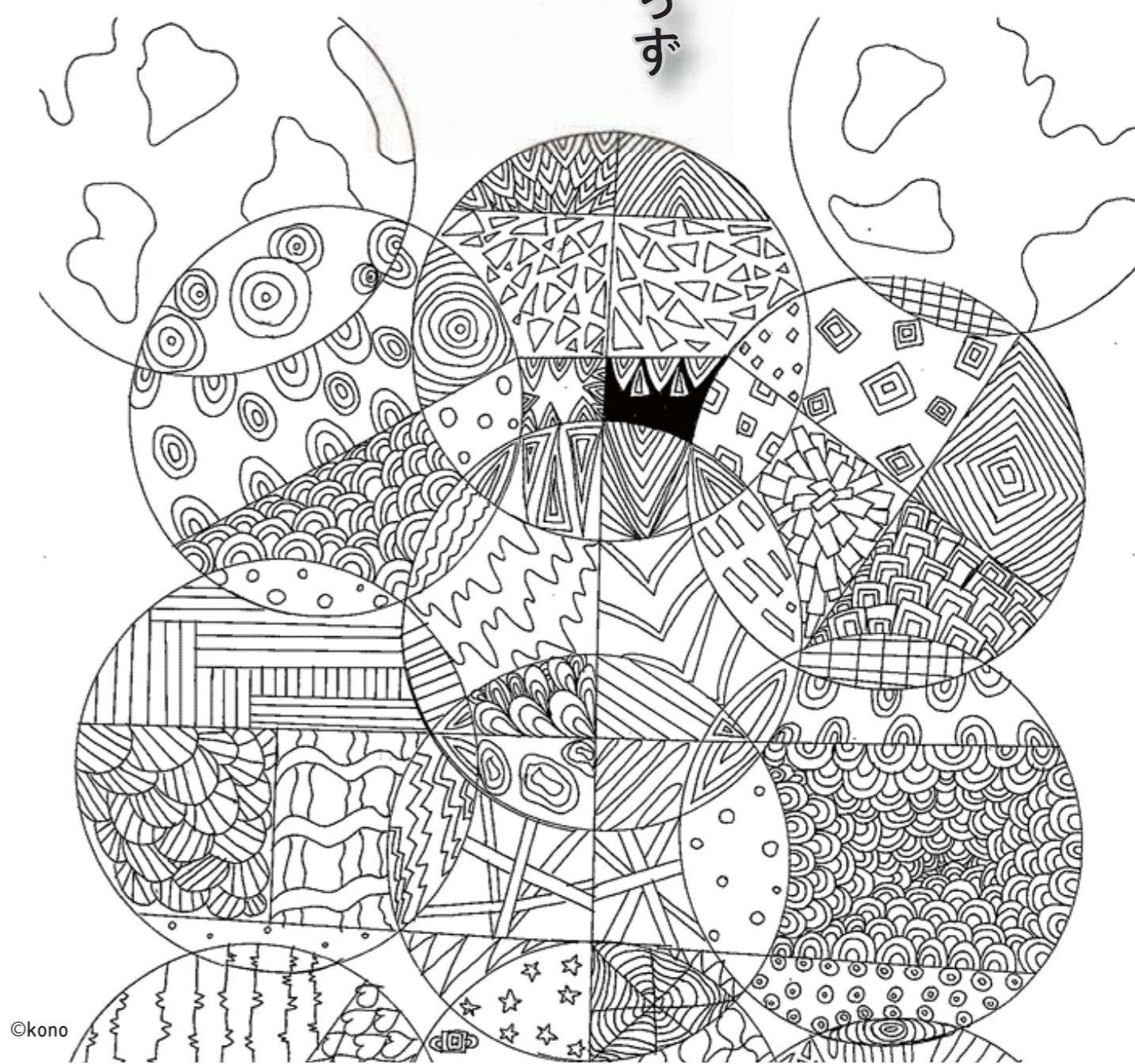
障害の状態や必要な支援は、一人一人違います。本人、  
保護者、支援者と相談すると、バリアを取り除くことに  
ぐっと近付きます。

それぞれの強みを生かし、  
ネットワークで学びの場が充実!



障害のあるなしにかかわらず  
一緒に学べる場  
つくってみたい

秋田県教育委員会



©kono

# 「障害者の生涯学習」を推進する 学習プログラムを創り出すことに挑戦しました

学びの場づくりの  
きっかけやヒントに  
なれば嬉しい！

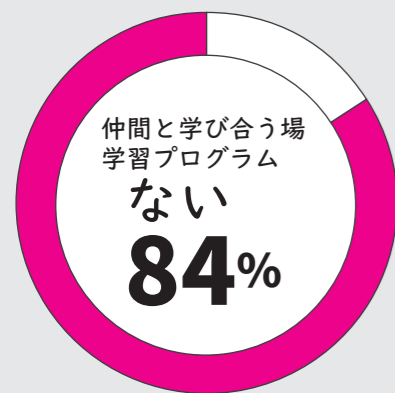
やってみて  
気付いた！

「障害者の生涯学習」の推進のため、学習プログラムの創出に取り組みました。秋田県生涯学習センターでは、次の視点を基に実践する過程で大切なことが見えてきました。

視点	<b>01 共に学ぶ場</b> 共生社会を実現するため、障害の有無に関わらず学ぶ場	<b>02 モデル講座</b> 県内全ての地域で学びの場ができるよう、基になる講座	<b>03 連携・協働</b> 持続可能な取組になるよう様々な主体が目標を共有
実践過程	楽しい体験や思いを伝え合う機会をつくり…	当事者の声、必要感などから学びの場をつくっていくと…	様々なつながりが生まれました
大切なこと	<b>声</b>	<b>場</b>	<b>つながり</b>

こんな風に  
やってみた！

秋田県生涯学習センターの取組：抜粋（実践例は次のページにあります）



「障害者の生涯学習」に関する  
ニーズ調査（R1）

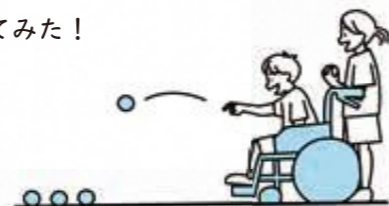


詳しくは  
「調査研究報告書」をご覧ください

県内では、障害のある方の学びの機会が不足…。

そこで、講座をやってみました！

あきたスマートカレッジ  
(障害者スポーツ)  
体験+話し合い



講座参加者「楽しかった！」「このような場があれば…」

この声を基に

他にも新しい取組をすすめた

障害者  
スポーツコーナー  
設置

新たな学びの  
ジャンル開拓  
(防災講座)

イベント実施

- ・コートマット無償貸与（秋田県パドミントン協会）
- ・ボッチャボール寄贈（株式会社サンエスコミュニティ 秋田ノーザンハピネッツ）
- ・あきたWith(※)が設立
- ・市町村と連携・協働し講座運営
- ・小学生、中学生、高校生が障害者スポーツを体験
- ・特別支援学校で防災授業

※あきたWithは、秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同した県内企業で設立した団体です。

## やってみた！実践編

### 01 共に学ぶ場

実践1 様々な立場の人が思いを伝え合う「熟議」  
県生涯学習センター社会教育主事がファシリテートし、「私たちが考える楽しい学びの場」というテーマで意見交換する場をつくりました。

「気軽に行けて、人と出会える場、  
関わる場があれば（保護者）」

「誰かの全てを受け入れることは  
できないけれど、受け止めることは  
できると感じた（大学生）」



参加者が活発に意見交換しました。

### 02 モデル講座

実践2 車いすユーザーの視点での「街歩きイベント」  
ランチをしよう、車いすにとって危険なものの写真を撮ろう、などのミッションにチームで取り組み、感想を伝え合うイベントを行いました。

「友達のような感覚で関わる事ができた。  
SNSで気付いた事を発信したい（企業参加者）」



車いすで街を歩くと多くの発見があります。

### 03 連携・協働

実践3 仙北市、企業と連携・協働した防災教室  
仙北市中央公民館が主催し、指定障がい者福祉事業所愛仙の利用者と、広報で呼びかけた一般の方を対象に、防災教室を行いました。講師は県生涯学習センター社会教育主事が務めました。この防災教室で使用した米、アルミ飯盒などは「あきたWith」が提供してくれました。

職員が来年の防災研修のアイデアを出し合っていました（福祉事業所管理者）



仙北市中央公民館 佐々木社会教育専門官による趣旨説明

実践4 企業等と連携・協働したボッチャ交流会  
「ボッチャ」で交流する取り組みをしました。特別支援学校児童生徒、福祉事業所利用者、企業、秋田県ボッチャ協会、秋田市身体障害者協会など様々な方が参加しました。また、高校生がボランティア活動をしました。

卒業してもこのような場があれば、  
と思いました（特別支援学校保護者）



声を掛け合う自然な交流が生まれました。